

持続可能なまちづくりを担う

建設産業



新経済政策追い風に

堅調を持続

建設経済研究所が主要建設会社40社（直近3年間にわたる連結売上高平均の上位）を対象にまとめた12年4・9月期決算分析によると、単体の受注高合計は前年同期比3・5％増の4兆5049億円で、2年連続の増加となった。震災直後の応急復旧工事などがあつた前年同期に比べると伸び率はやや下がっているが、遅れ気味だった復興工事が本格化して堅調を持続。リーマン・ショック前の08年4・9月期は6兆5000億円だったので、約75％の水準まで受注が戻ってきた状況になる。

12年4・9月期の単体受注高を規模別に見ると、大手（連結売上高1兆円超の5社）が同2・6％増の2兆2027億円、準大手（同2000億円超の10社）が同5・0％減の1兆1992億円、中堅（同2000億円以下の25社）が同17・3％増の1兆1029億円。大手は手堅く受注を伸ばしたのに対し、準大手は前年同期が2ケタ増だった反動減で落ち込み、中堅は自治体などの復旧・復興関連工事を幅広く集めて

インフラ投資による国土強靱化を掲げた自民党を軸とした新政権が誕生し、風向きが変わってきた建設業界。だが、足元の事業環境は依然として厳しい。2008年秋のリーマン・ショックをきっかけに低価格受注競争が再燃し、採算性の低い工事を抱え込んだところに、震災復旧・復興に伴う労務費や建設資材の高騰が起こったためだ。11年度以降、赤字に陥る会社も散見される。ただ、不採算工事は今年度でほぼ解消される見通しにあり、新政権による経済政策も追い風に、13年度から回復軌道をたどっていきそう。

建設投資上昇見通し

東南アジア展開も活発に

が、反動減に見舞われた格好だ。

また、連結の売上高合計は震災復旧・復興工事の進捗とともに国内・海外の海外工場建設が加速したことが要因となり、同4・8％増の5兆5671億円、規模別では大手が同6・1％増の2兆9549億円、4年ぶり、準大手が同5・7％増の1兆5200億円、2年連続、中堅が同0・3％増の1兆921億円、5年ぶりの増加となった。収益面では、12年4・9月期における連結経常利益は総計で同57・4％減の307億円になり、売上高経常利益率は同0・8％ダウンの0・6％。円高に伴う為替差損は11年の約119億円から約76億円に減少しているものの、営業外利益が小さかったこともあって2年連続の悪化となった。

企業規模別に経常利益を見ると、大手は5社のうち1社が赤字で同15・9％減の456億円（売上高経常利益率1・5％）、準大手は10社のうち5社が赤字で損失53億円、中堅は25社のうち13社が赤字で損失95億円。11年に赤字となった中

海外事業を強化

13年度見通しの内訳は政府建設投資が20兆2100億円（同12・2％増）、民間住宅投資が14兆4200億円（同5・4％増）、民間非住宅建設投資が12兆7000億円（同3・8％増）。政府投資は地方単独事業が前年度並み、国も補正予算を踏まえ13年度当初予算については前年度並みとなり、東日本大震災復興特別会計の建設投資を2兆5000億円程度と見込んで推計した。住宅着工数は復興需要と消費増税前の駆け込みで95万100戸（同4・5％増）を予想している。

前提となる12年度の実績見込みは政府建設投資が18兆2000億円（同8・2％増）、民間住宅投資が13兆6800億円（同4・1％増）、民間非住宅建設投資が12兆2400億円（同2・8％増）。住宅着工戸数については89万戸（同5・8％増）とされた。一方、ここ数年続いた円高は修正局面を迎えているものの、東南アジア諸国などが目覚ましい経済成長をみせて市場性が高まっており、国内製造業の海外展開は相変わらず活発。日系メーカーの工場建設を狙う建設会社も海外事業を強化する動きが目立っている。11年の洪水被害によりさまざまな産業分野でサプライチェーンに支障をきたす事態を招いたタイは、復旧に併せて工場を拡張移転する動きも出ており、日系セネコン各社とも繁忙を極める。また、インドネシアも日系自動車メーカーの展開で部品サプライヤーが相次いで進出を決め、需要に応えきれないような状態だ。同国には、田建設と前田建設工業が新たに駐在員事務所を開設し、ゼネコン大手・準大手の足並みがほぼそろった。

想像を、チカラに。

フランス人の小説家、ジュール・ヴェルヌが残したという言葉があります。「人が想像できることは、必ず人が実現できる」
100年以上も前に彼が空想したロケットや携帯電話が、世界の常識になっている今日。私たちは、「想像」の可能性を否定することはできません。
いま、私たちが建設するひとつひとつが、地球の上でどんな存在なのか問われる時代。これから築かなければいけないのは、人と地球のいい関係です。100年先、200年先、ずっと先の未来まで。私たちは、想像します。たとえ大変難に思えることでも、やがて世界の常識になる日が来るために。
人が想像できることは、必ず人が実現できる。鹿島の都市づくりは、100年先を見つめています。

100年をつくる会社
鹿島

時をつくる ところで創る

子どもたちが大人になっていくように、
街も健やかに育っていくと、
そこで暮らすみんなに幸せが広がります。

わたしたち大林組は、
親が子どもたちに愛情を注ぐように、
ところを込めて、建物や街をつくっています。

みんなの未来を、夢のある時間で満たすために。

www.obayashi.co.jp

 大林組
OBAYASHI